



OTC薬を上手に使おう…合う薬・合わない薬⑨ 漢方薬(2)

「合わない薬」を避け「合う薬」を選んで、セルフメディケーションを上手におこなうためのポイント

- ① 薬を服用(使用)する人の体質に合っているかどうか
- ② 薬を服用(使用)する人の症状(病気)に合っているかどうか

今回も、漢方薬の「合う薬・合わない薬」についてみていきましょう。

「防風通聖散(ぼうふうつうしょうさん)」という漢方薬があります。平成20年4月に始まった「いわゆるメタボ健診」で、爆発的に広まった漢方薬です。ずっと昔から売られていた薬ですが、その名もいろいろに変えて、まるで新しいメタボの特効薬のように売られました。ナイトールが代表格です。

前回(No.5-8)漢方薬には「証というしぼり」があると書きましたが、防風通聖散のしぼりは、以下のようなものです。

「体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がち」の人が、次のような状態であるときに合う薬ということです。

- ① 高血圧や肥満に伴う動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘
- ② 蓄膿症(副鼻腔炎)、湿疹・皮膚炎、ふきでもの(にきび)、肥満症

つまり、いくらメタボであっても、体力のない人、お腹の皮下脂肪(内臓脂肪ではない)の少ない人、下痢または軟便気味の人には合わない薬とされています。

また、②として「肥満症」の効能があるので、メーカーはメタボ対策用として宣伝しましたが、肥満症ではない大勢の人が使ったと思われます。肥満と肥満症は違います。肥満症は医師が診断する病名です。

【肥満とは】 脂肪組織が過剰に蓄積した状態で、おおむねBMIが25以上の人とされていますが、必ずしも治療が必要とはされていない。

【肥満症とは】 医学的に減量を必要とする病態をいい、肥満と判断された者(BMI 25以上)のうち、肥満に起因する健康障害を有するもの、または健康障害を伴いやすいハイリスク肥満(腹部CT検査によって確定診断された内臓脂肪型肥満など)

つまり、②の肥満症であれば、OTC薬(一般薬)ではなく医師の治療を受けるべきでしょう。

以上は、「証」から見た「合うか合わないか」の話ですが、合わない人が防風通聖散を飲んで「効かない」「かえって具合が悪くなった」などの口コミが広がることとなります。

また、防風通聖散は、①で高血圧の人が使う薬とされていながら、むくみ、排尿困難、高血圧、心臓病、腎臓病、甲状腺機能障害などの人は、医師や薬剤師に相談して使わなければならない薬なのです。漢方薬を西洋医学的に使うことの矛盾かもしれません。

添付文書には、重篤な副作用として次の注意が記されています。

- 間質性肺炎→階段を上ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
- 偽アルドステロン症、ミオパチー→手足のだるさ、しびれ、つっぱり感やこわばりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる。
- 肝機能障害→発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。



これらの副作用を起こしやすい生薬として、カンゾウやオウゴンがありますが、防風通聖散にはどちらも含まれています。漢方薬は安全と思われがちですが、重篤な副作用をおこすものが多くあります。専門家のアドバイスを受けて使いましょう。